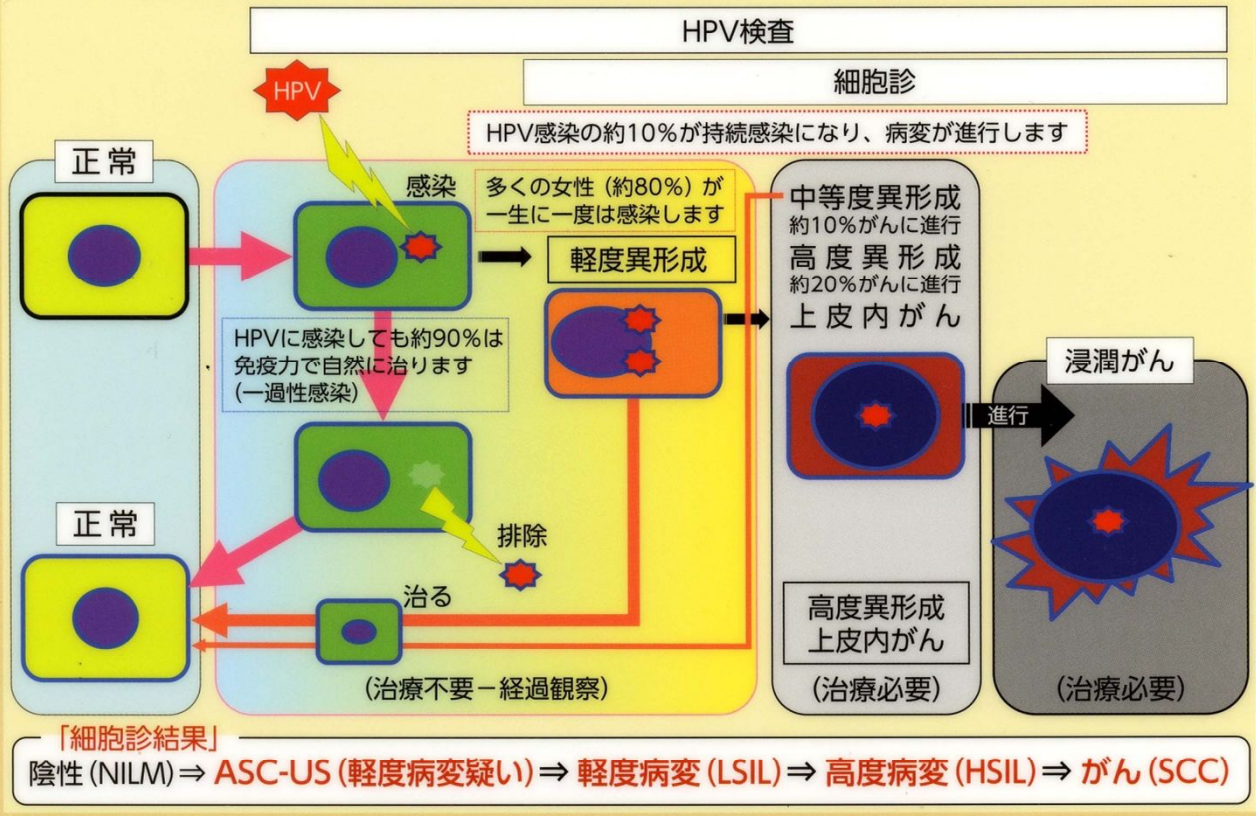


HPV感染と子宮頸がんに至るまでの病理学的変化



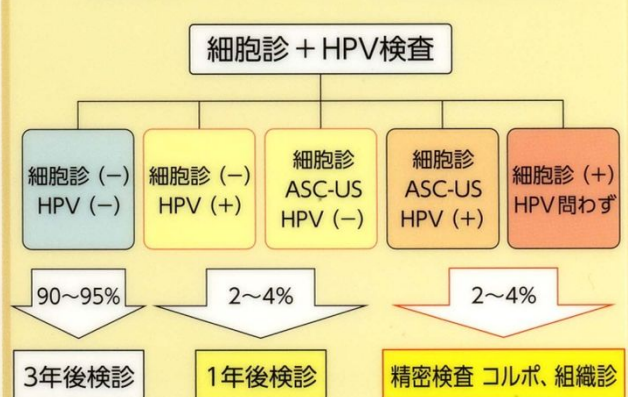
HPVと子宮頸がん

- HPVテストが陽性とは、子宮頸がんの原因となるハイリスクHPV13種類(16,18,31,33,35,39,45,51,52,56,58,59,68型)のいずれかの感染があることを示している。
- ほとんどの成人女性(約80%)が一生涯に一度はHPVに感染し、約90%は自然に消える。
- HPVは皮膚・粘膜の接触で伝播する。
- HPVは健康な女性にも存在しており、細胞診で異常がなければ治療の必要がない。
- 免疫や喫煙などの要因が加わり、高度異形成やがんに進行する。
- 子宮頸がんはありふれたウイルス(HPV)による稀な合併症である。

子宮頸がん検診(細胞診・HPV併用)の結果

異常なし(NILM)		軽度病変疑い(ASC-US)		軽度病変(LSIL) 高度病変疑い(ASC-H)
HPV陰性	HPV陽性	HPV陰性	HPV陽性	高度病変(HSIL) 扁平上皮癌(SCC) 腺癌疑い(AGC) 腺癌(Adenocarcinoma) その他の異常
3年後検診	1年後検診	精密検査(コルポ下生検)		

細胞診・HPVテスト併用検診の例



詳細は、研修ノートNo.90「婦人科外来診療のための細胞診・組織診のすべて」および「産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来篇」をご参照下さい。
公益社団法人日本産婦人科医会 がん対策委員会

平成25年11月